



## 経済産業省・経済政策

### 第4次産業革命への対応

～connected Industries の取組～

経済産業省の情報では、第4次産業革命の中で重要な項目として

「IoT、ビッグデータ、AI、ロボット」が挙げられています

IoTでは社会のあらゆる情報がデータ化されネットワークを通じて自由にやり取り可能になったこと

ビッグデータは大量のデータを分析し、今まで見つけられなかった新たな価値を見出し利用可能にすること

AIでは、人工知能が自ら学習し、人間の基準に当てはまらない高度な判断が可能になること

ロボットでは複雑な作業についても自動化が可能になること

これら4つの項目から産業構造や就業構造が劇的に変化することを第4次産業革命と位置づけています

IoT、ロボット等の導入により生産性向上や単純作業や重労働を省力化し、労務費を削減することが掲げられ、人手不足解消や働き方改革に繋げることも明言されています。現在はバブル経済の頃と同水準の人手不足と言われていますが、テレワークともあいまって若者、女性、高齢者が働きやすくなる環境の実現を進めています。

ただし、企業単位で見ると導入に時間がかかる件、システム導入や現在の社員に向けた新たな教育カリキュラムの導入・新制度の導入に至るまでに、計画・試行・導入までのプロセスについて多くの中小企業が構築出来ていないことが懸念材料となっています。働き方改革についても「休日」「時間」「女性採用」といったキーワードだけが目立ち、本来なすべき「生産性向上」や「事業高効率化」についての施策検討がなされていないことが課題として残っています。

### 国・行政・市場から見る企業の危機

景気が回復傾向にあり、業績も好調な企業が多くみられる今こそ、これらの危機感・変化に対する体制づくりについて共通の認識を持ち一斉に準備に取り掛かるべきだということ。戦後培ってきた技術力・生産力等の強みをうまく活用しつつ、変革につなげていくことが不可欠です。

### 2018年版 エネルギー白書の概要

2018年は明治維新から150年目の年となり、産業革命が行われていく最中、日本のエネルギーを巡る歴史について説明があり。また、エネルギー基本計画の見直しが行われたことから、現在のエネルギー事情について記載されています。前回のエネルギー基本計画から情勢変化も激しく4年も経過していることもあり、現在のエネルギーミックスの進捗や再生可能エネルギーの導入状況についてもデータ説明がありました。

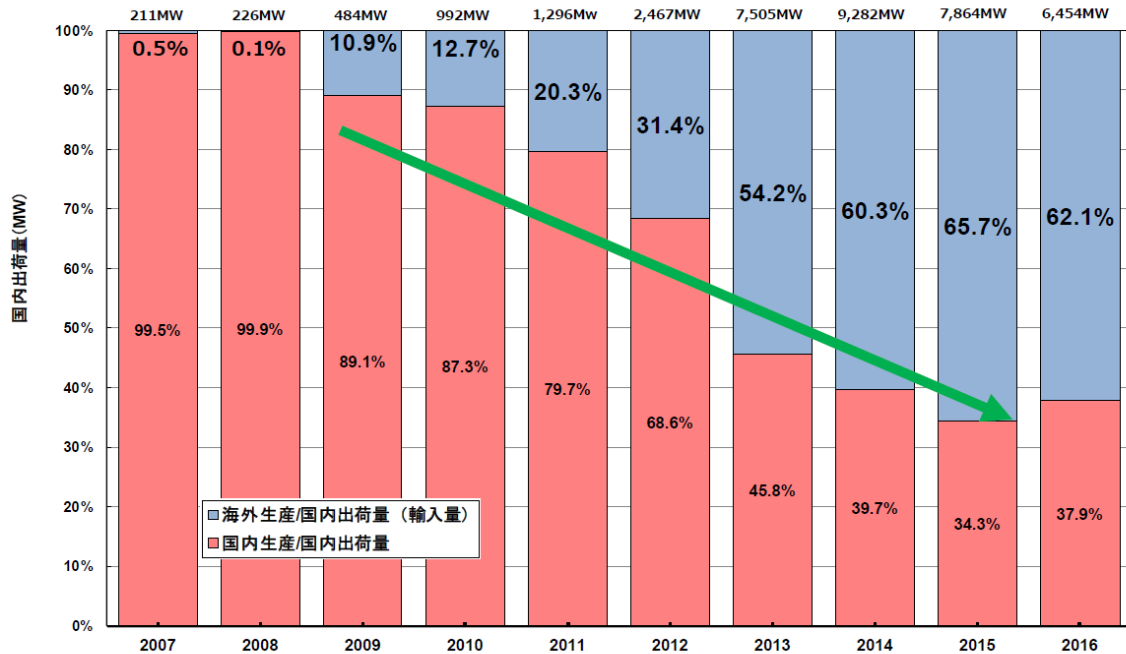
詳細はこちらよりご確認ください。

[http://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2018gaiyou/whitepaper2018pdf\\_h29\\_nenji.pdf](http://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2018gaiyou/whitepaper2018pdf_h29_nenji.pdf)

## (参考) エネルギー技術自給率について

- 我が国の太陽光のパネルは海外勢が急速に台頭。

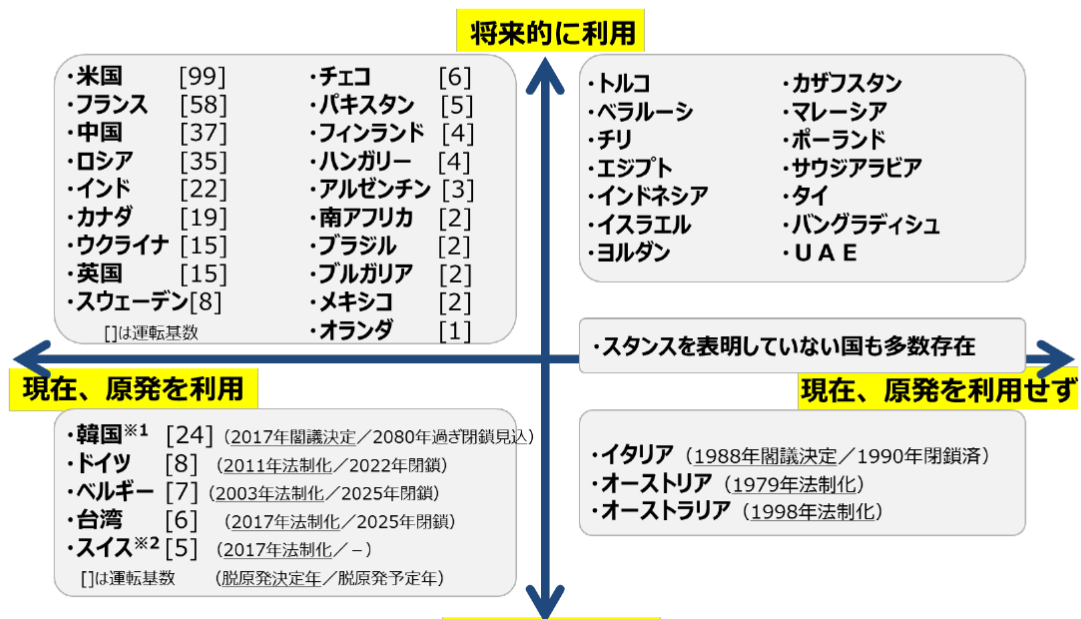
太陽光発電の国内出荷量に占める海外パネル比率



出典：エネルギー情勢懇談会（第8回）資料より作成 38

## 原子力 世界の原子力の利用実態

- 東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故を受け、脱原発に転換した国・地域は韓国、ドイツ、台湾、スイスの4つ。
- 一方、多くの国が地球温暖化対策・低炭素化などを理由に原子力を選択。



※1 韓国では5基の建設が続行（うち、新古里5・6号機については、討論型世論調査を実施した結果、建設の継続を決定）

※2 スイスは運転期間の制限を設けず